

## 銅の輸入は内需の低迷で減少する

### 住宅着工、自動車生産ともに振るわず

橋本健一郎氏リポート①

#### ■国際概況

八月前半は、ニッケルがインドネシアからの輸出禁止観測受け急騰、一時一年四カ月ぶりとなる一万六、〇〇〇ドル台に突入したことなどのプラスチック材料もあったが、米中貿易交渉が物別れに終わったことに加え、トランプ大統領が九月一日より対中追加関税「第四弾」発動を表明したこと、中国の追加関税措置示唆と限度を超える人民元安容認を嫌気しLME銅相場はDOWN、八月十三日時点で五、七二四・五ドル(セツル)と月初価格より二〇一・五ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は香港政府が逃亡犯条例改正案を正式に撤回したこと、中国国務院が消費促進を促す一連のガイドラインを発表したことなどのプラスチック材料もあったが、米国の対中国報復関税「第四弾」の発表を受けた中国の「対抗措置」警告で、貿易摩擦激化と景気減速懸念、米連邦準備理事会(FRB)議長講演が長期利下げを否定する内容であったことを嫌気しLME銅相場はDOWN、九月五日現在、後半スタート価格から三三・五ドルDOWNの五、六六三ドル。銅建値は据置の六四万円スタート。

#### ■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)

一〇九・六四→一〇七・四六(円)。

#### ◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、六月の自動車生産台数は前年比一・五%減の八一万八八台であった。

輸出(七月)は四四万五、七一四台で前年同月比一七・二%増。

#### ◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、八月の自動車販売台数(軽除く)は前年比四%増の二四万二、七一八台。

#### ◆新設住宅着工件数推移

令和元年七月の住宅着工戸数は七万九、二二三戸で、前年同月比で四・一%減となった。また、季節調整済年率換算値では九一・〇万戸(前月比一・三%減)となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で先月の増加から再びの減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家及び分譲住宅は増、貸家は減となった。

#### ◆貿易関連指標

##### 輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が五・二%増の四万八、七二六t、スクラップが一四・二%減の二万二、八七二t。

##### 輸入

輸入は電気銅が前年比七六・八%減の八〇一t、スクラップが〇・三%減の一万二、七六六t。

#### ■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比三・八%減の六万六、九三七t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)銅電線出荷量は、前年比八・一%増の六万四、三〇〇tであった。

#### ■国内概況まとめ

##### 【自動車】

日本自動車工業会によると六月の自動車生産台数は前年比一・五%減の八一万八八台であった。

輸出(七月)は四四万五、七一四台で前年同月比一七・二%増。

##### 【販売】

日本自動車販売協会連合会によると八月の自動車販売台数(軽除く)は前年比四%増の二四万二、七一八台。

このうち、乗用車〇・八%増、貨物二・三・四%増、バス三二・六%増。

##### 【住宅】

令和元年七月の住宅着工戸数は七万九、二二三戸で、前年同月比で四・一%減となった。また、季節調整済年率換算値では九一・〇万戸(前月比一・三%減)となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で先月の増加から再びの減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家及び分譲住宅は増、貸家は減となった。

引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。(八面へ続く)

# LME銅・米中貿易戦争や香港デモの動向などが左右か 為替予想 (四面より続く)

## 【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比三・八%減の六万六、九三七tで、八カ月連続減少。

内需よりも海外輸出向けの減少率が大い。

また、伸銅品の一四品種のうち、前年同月比プラスは、前月の二品種から五品種に増えた。

品種別では、銅条は二万二、八〇八tで〇・九%減と六カ月連続マイナス、黄銅棒は

一万五、二二〇tで一・〇%減と七カ月連続マ

イナス。

## 【電線】

前年比八・一%増の六万四、三〇〇t。

このうち、国内は九・六%増 輸出が

三八・四%減。

## 【輸出】

電気銅輸出が五・二%増の四万八、七二六t、

銅スクラップが四・二%減の二万、八七二t。

## 【輸入】

電気銅が七六・八%減の八〇一t。スクラップ

が〇・三%減の二万、七六六t。

## 【見通し】

・自動車は生産が一・五%減、国内販売台

数が前年比四%増と、生産が再びマイナス。

生産はマイナスだが販売はプラス、今後に見

視。

・伸銅品生産は前年比三・八%減の

六万六、九三七tで、八カ月連続減少。更に

マイナスが続くか注視。

電線は前年比八・一%増の六万四、三〇〇

t。このうち、国内九・六%増、輸出が

三八・四%減。

・銅輸出は電気銅は割安感から増加したが、

スクラップは用途の低迷から減少。

・銅輸入は内需低迷から減少。

## 【スクラップ景況予想】

前月同様に流通在庫はここ最近の相場下

落(五万円)から塩漬玉があり、銅建値が

七〇万円程度になれば市中にでてくるのでは

ないか。

需要面に関しては足元の生産状況が徐々に

悪化しており減少。

米中貿易戦争から不透明感が強く、メー

カーの購入意欲は低く、スクラップ販売は当

面厳しい。

## 【LME・為替予想】

今月は米中貿易戦争の動向、香港デモの動

向に左右される。

米中貿易に関しては、九月に米国との通商協議実施で調整と表明したが、条件面で両者が折り合えるとは考えにくく、まだまだ悪化するのでは？

香港デモに関しては逃亡犯条例改正案の撤回を認めた中国政府だが、反対派が掲げる「五大要求」のうち、残る四つに習近平指導部が応じる可能性は低い。

これらを踏まえた七月の銅価格は五、六〇〇〜五、八〇〇ドル(セツル)との予想。

ドル円値は一〇五円〜一〇七円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては六三〇〜六六〇円程度と予測している。

◇COMEX銅在庫 四万四、一一三トン 変わらず

五日

◇東工取(六日前引、限月十月)

金 五、二二一 円

銀 六四・〇 円

白金 三、二五八 円

パラジウム 出来ず 円

◇KLT M 米ドル

六日 一七・一〇〇 トン

◇LME 非鉄在庫 (9月5日発表分)

	入	庫	出	庫	9月4日 現	4日 在	増	減
銅	0	4,875	0	4,875	318,675	318,675	0	4,875
G A W	0	0	0	0	0	0	±	0
G A C	0	4,875	0	4,875	318,675	318,675	0	4,875
す ず	5	5	5	5	6,970	6,970	±	0
鉛	0	475	0	475	76,625	76,625	0	475
亜鉛 SHG	1,250	825	0	825	66,600	66,600	+	425
アルミ	0	3,450	0	3,450	918,925	918,925	0	3,450
二次合金	0	120	0	120	7,060	7,060	0	120
ニッケル	408	108	0	108	153,822	153,822	+	300
アルミ二次 (NASAA)	0	260	0	260	76,260	76,260	0	260